

尾道郷心会

— 会員様の笑顔をつくりたい —

KYOSHINKAI
ONOMICHI

No.59



ディーラーのご案内
アンフィニ広島 東尾道店
広島マツダ 尾道山波店

活動報告

「御調町ふれあい秋まつり」
「マツダ ファンフェスタ in 岡山 ツアーイベント」
「おのみち福祉まつり」

尾道郷心会設立30周年企画

【潮風に吹かれて・・・尾道界限】
第2回 文責：写真家・村上宏治

井上 将吾様

会員様ご紹介
株式会社荳番館
代表取締役

会員様の笑顔をつくりたい
— 尾道郷心会 —



尾道郷心会URL



KYOSHINKAI — ONOMICHI



新企画として11月5日(日)に、尾道郷心会・因島郷心会合同「マツダ ファンフェスタ in 岡山」参加ツアーを実施しました。ツアーには尾道郷心会より25名の参加となりました。9時半ごろ岡山国際サーキットへ到着。会員の皆様が事前にご予約された各種コンテンツを堪能されました。朝早くからマツダに浸ってもらいイベントでしたが、参加された会員の皆様はとも満足された様子でした。

【尾道郷心会 活動報告】
《尾道・因島郷心会合同》
「マツダ ファンフェスタ in 岡山」
参加ツアー開催のご報告

「おのみち福祉まつりへのMX-30 SeDV 展示報告」
10月15日(日)、尾道市総合福祉センターで開催された尾道市社会福祉協議会主催イベント「第52回 おのみち福祉まつり」に参加。マツダ E&T 管理所有の福祉車両 MX-30 SeDV を展示、広島マツダ様に商品説明をご協力いただきながら、来場者へ紹介をさせて頂きました。
興味を持つて見学に来られた参加者は、なんと100名を上回り、マツダの福祉車両への取り組みや、展示車両を詳しくご紹介することができました。「どうしてこんなカッコいい車が置いてあるの？福祉車両？」説明を受けられた参加者の皆様からは「車椅子をこういう風に載せられるんですね」「実際に動きを見られて良かった」「簡単に切り替えて、同じ車を、障がい者だけでなく健常者も使えるんですね」など、マツダの取り組みを評価するたくさんのお声を頂きました。



「ショールームでお待ちしております」

アンフィニ広島 東尾道店



アンフィニ広島
東尾道店様URL

尾道市東尾道 19-9
TEL (0848) 46-3500
営業時間 9時～18時
定休日 毎週火曜・第2水曜日

広島マツダ 尾道山波店



広島マツダ
尾道山波店様URL

尾道市山波町 20-1
TEL (0848) 46-0211
通常営業時間 ショールーム (9時～19時)
サービス受付 9時～18時
定休日 火曜日

発行：尾道郷心会／尾道市土堂 2-10-3 尾道商工会議所ビル内

TEL (0848) 22-9369 e-mail: onokyo@mazda.co.jp

撮影・制作：村上アーカイブス 担当：麻生祥代 aso@ermjp.com



マツダ株式会社
URL



村上アーカイブス
URL



ち寄った船乗りの方たちが行く先々で気になったお酒を持ってきた、次に来る時までのキープだと言われて置かれていかれたお酒なんですよ・・・と。それから約束なので、
尾道は海都市として造船の町。造船所とそこに関係した色々な仕事がありました。その昔、捕鯨船団の母船に付属して鯨を捕らえる役の船のキャッチャーボートも修繕で尾道に帰ってきました。母船は因島で、キャッチャーボートは向島で修繕します。その船の数は時に尾道水道の幅三分の一を使っていました。
尾道水道を行き交う船は内航船がほとんどでしたが、時に外航船も入ります。尾道駅前には造船所もあり、定期的に進水式が行われます。そこに行き交う定期航路の船と、尾道と向島を結ぶフェリーがあり、常に尾道水道は船・船・船の銀座通りでした。
林美美子の放浪記にも出てきます。一節に「この町は何か祭りでもあるのか・・・」で表されているように、山陽本線と四国や各島々に向かう定期航路の尾道港。向島に渡るフェリーで、毎日が祭りのような人の多さでした。
賑わいにあふれる尾道。尾道人はもとより、尾道に仕事で、観光で訪れる人たちを迎えた摩訶不思議なしかし、魅力漂うBarがその暁でした。その不思議さは、結局船乗りたちの想いで詰まった空間がそうさせているのでしょうか。国内に数本しか現存しないと云われる、ドラマのあるお酒が何本も並んでいました。それらはすべて船員さんのキープか、旅先で購入してもらったもので、開封はされない琥珀色の宝物。まるで生きた博物館さながら。
まずは暁にお連れしたら、魔法にかかったかのように、お互いの距離がなくなり話が弾みます。海都市として、そして産業としての二面の尾道の姿とはまた別に、「心の港」としての役割を持っていたのが暁だったのでしょうか。その暁は時の流れの中で、閉店となりました。
造船技術も色々と発展してきた今日、海都市尾道だからこそ、また新たな心の港である第二の暁が、尾道に産声上げることを楽しみにしています。



トは向島で修繕します。その船の数は時に尾道水道の幅三分の一を使っていました。
尾道水道を行き交う船は内航船がほとんどでしたが、時に外航船も入ります。尾道駅前には造船所もあり、定期的に進水式が行われます。そこに行き交う定期航路の船と、尾道と向島を結ぶフェリーがあり、常に尾道水道は船・船・船の銀座通りでした。
林美美子の放浪記にも出てきます。一節に「この町は何か祭りでもあるのか・・・」で表されているように、山陽本線と四国や各島々に向かう定期航路の尾道港。向島に渡るフェリーで、毎日が祭りのような人の多さでした。
賑わいにあふれる尾道。尾道人はもとより、尾道に仕事で、観光で訪れる人たちを迎えた摩訶不思議なしかし、魅力漂うBarがその暁でした。その不思議さは、結局船乗りたちの想いで詰まった空間がそうさせているのでしょうか。国内に数本しか現存しないと云われる、ドラマのあるお酒が何本も並んでいました。それらはすべて船員さんのキープか、旅先で購入してもらったもので、開封はされない琥珀色の宝物。まるで生きた博物館さながら。
まずは暁にお連れしたら、魔法にかかったかのように、お互いの距離がなくなり話が弾みます。海都市として、そして産業としての二面の尾道の姿とはまた別に、「心の港」としての役割を持っていたのが暁だったのでしょうか。その暁は時の流れの中で、閉店となりました。
造船技術も色々と発展してきた今日、海都市尾道だからこそ、また新たな心の港である第二の暁が、尾道に産声上げることを楽しみにしています。



昭和38年(1963)9月1日の写真。番号のある船がキャッチャーボート。
(撮影：故・土本壽美氏)



文責 写真家 村上宏治
(村上アーカイブス代表)

尾道郷心会30周年企画
【潮風に吹かれて・・・尾道界限】

第2回(全3回)

【尾道郷心会・会員様紹介】

株式会社壺番館

代表取締役

井上 将吾 様

お土産物から、全国へ

麵は平麵、瀬戸内の小魚と鶏ガラベースに醤油ダレのスープ、豚の背脂を浮かべ、今や「尾道グルメ」を代表する「尾道ラーメン」。休日ともなれば市内のあちこちのラーメン屋さんに行列が出来るのも、すっかりおなじみに。尾道郷心会で役員に「就任いただいたております住吉浜の壺番館さんもその一つ。平日でもいつも長い列ができています。長年ファンに愛される尾道を代表するお店の一つですが、他のお店とは異なる生い立ちを持たれるそう。

「うちはお土産物から始まったんです」井上社長は我々の取材にこう切り出しました。

まだインターネット通販も存在せず、尾道ラーメンという言葉もなかった30年前。「尾道中華そば」の美味しさをそのまんま、ご自宅でも食べて頂きたいとお土産物として開発され、コッソリとした手売りから始まったのが壺番館の尾道ラーメンでした。



【おのみち本店】平日14時近くになっても行列が途切れることの無い、住吉浜に面したおのみち本店。店長の升元さんは、先代の出店時からずっとお店を切り盛りされています。



尾道の味を
尾道で食べたいという
たくさんのご要望から
お店が始まりました

偶然にも、しまなみ海道の一部開通や映画『男たちの大和』のPRムで尾道の町そのものが注目を集め始めた時期と重なり、お店ながらの味を楽しめるお土産ラーメンの美味しさは、全国の人に喜ばれ始めました。

そして数年後、今度は逆に「このお土産ラーメンの美味しさを尾道の町で味わいたい」というファンの声に応えて誕生したのが住吉浜の実店舗だったのです。

元々は壺番館のラーメンは、藤原さんと有やすなが「高崎さん」というお二人が共同経営しながら開発した商品でした。時の流れの中で後継者問題に直面された時、お二人に深い縁があった井上社長が「自分自身も慣れ親しみ、もはや尾道ブランドにもなった壺番館の味を無くすわけにはいかない。自分に継承させて下さい」と1年をかけ情熱をもって説得し、先代のこの味を守っていくことになりました。



代々のお土産物のパッケージ。最新のものには「一杯のラーメン。はじまりは通販だった。」と、「生い立ち」への深い想いが。



普通車と変わらない乗り心地で小回りもきく「フレアクロスオーバー」は、奥様の愛車として、時に商品配達としても尾道の町で大活躍。

株式会社壺番館 〒729-0141 尾道市高須町4888-10
TEL：0848-46-4611 FAX：0848-47-0331

■ 尾道ラーメン 壺番館おのみち本店
〒722-0035 尾道市土堂2丁目9-26
TEL：0848-21-1119
FAX：0848-21-1103
営業時間：11：00～18：00
(スープがなくなり次第終了)
定休日：金曜日(祝日は営業)

■ 尾道ラーメン 壺番館新宿御苑店
〒160-0004 東京都新宿区四谷四丁目28-20
パレ・エテルネル107号
TEL：03-6380-0996
営業時間：11:00～15:00、
18:00～21:30(L.O.21:00)
定休日：日曜日

【尾道郷心会
活動報告】

「御調町ふれあい秋まつり」

11月12日(日)みつぎいきいき公園(道の駅北側芝生広場)周辺で開催された御調町ふれあい秋まつり実行委員会(尾道しまなみ商工会・JA尾道市)主催イベント「第32回御調町ふれあい秋まつり」に参加させていただきました。

当日は冬の到来を感じる寒い日となりましたが、開催を楽しみにされていた御調地区の方に加え、道の駅に立ち寄る観光客など多くの方が来場されました。会場入口付近に設置していただいた尾道郷心会ブースには、広島マツダ尾道山波店にお借りしたマツダCX-60を展示、来場者へのクルマの説明なども協力頂きました。「内装がいいです」、「モニターが大きくていいですね」、「ナビが大きい」と見て触れて頂き、マツダ車の魅力を知っていただく機会となりました。

「知らない人も多い」と感じています。「尾道が大好きだからこそ、外に出ないと分からないことも多い」尾道に根差しつつ、常に意識は外に向け、外で学んだことを「地元」にフィードバックさせることが何よりも大切だと言われます。

「尾道ラーメンの味を全国に広めて、この味を、尾道の景色の中で食べてみたい」と、全国の方に思ってもらい、実際に尾道の町に足を運んでもらえたら、結果地元への恩返しにもつながるのかなと、そんな夢を尾道出身の同志と、自身のご子息に託し、2020年に、東京都内に壺番館の2号店を出店されました。

“人と人が、どう
交わるか”が一番大切

先代の想いを背負いつつ「時代がどんなに変わっても、人と人がどう交わるか」が一番大切だと感じています。尾道のDNAを持つラーメンというツールで、原点に「還りたい」と、次の夢である世界進出にむけ、まっすぐに未来を見つめておられました。



【新宿御苑店】「都内に何件も尾道ラーメンのお店はあるけれど、尾道に実店舗があるのはうちだけです」地元の同級生の井上社長の志に共感し、2号店を背負う店長の小林さん。関東の人の好みに合わせて多少濃いめにアレンジを加えつつ、尾道の味を定着させるべく奮闘されています。井上さんのご子息も「いつかは世界にも」の夢を抱きつつ、尾道らしい人と人とのふれあいを大切にした接客で、着実にファンを増やされています。



株式会社壺番館様
ホームページQR

